

第42回

サタデーセミナーのご案内

(一社) 日本ゴム協会 関西支部

本セミナーは、今年度で第42回(42年目)を迎え、これまで10月スタートで長年おこなって参りましたが、第41回は、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、半年間の延期を決定致しました。それに伴い、第42回からは、サタデーセミナーは新たに4月始まりとして、スタート致します。

内容はこれまでと変わらず、魅力的な先生方にご講演頂きます。中山敦好氏(産業技術総合研究所)に生分解性ポリマーについて、永田員也氏(富山県立大学)にナノフィラー充填コンポジットの力学特性について、小田川義幸氏、榊田宏氏(日本ゼオン株)の両氏にアクリルゴムの概論について、木村和資氏(横浜ゴム株)にシーリング材・弾性接着剤について、福森健三氏(愛知工業大学)にエラストマー系ナノコンポジットとNMRでのゴムの劣化解析について、鹿久保隆志氏(横浜ゴム株)に異種材料接着のためのゴム配合と接着解析について、それぞれ午後半日を使ってじっくりとお話しをしていただきます。これだけじっくり話を伺える機会は、他に類を見ません。また、講演終了後には同会場で講師を囲んでの質問・懇談会を設定しております。下記ご参照の上、奮って参加申し込みくださいますようお願いいたします。

日時：令和3年4月,6月,8月,10月,12月,令和4年2月 各第1土曜日 計6回
12時30分~16時00分(講演(予定)) 講演終了後~17時00分(質疑及び懇談)
(講師や内容によって講演終了時間が変わることがあります。)

(※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、Web講演会または対面とのハイブリッド講演会に切り換えること、また懇親会が中止になる可能性があること予め御了承頂きますようお願い申し上げます。)

場所：DKビル(旧電子会館) 4階会議室
大阪市北区西天満6-8-7
参加費：77,000円(年間資料費;消費税を含む)
1社で毎回2名まで参加できます

問合先：一般社団法人 日本ゴム協会 関西支部 事務局
〒577-0011 東大阪市荒本北1-5-5

TEL：06-6744-2150, FAX：06-6744-2052, E-mail：srijwest@oak.ocn.ne.jp

【テーマ、講師、講述要旨】



R3.4.3 「生分解性ポリマー」

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 主任研究員 工学博士 中山 敦好 氏

海洋ごみ問題やマイクロプラスチック問題などプラスチックを取り巻く環境は厳しさを増しており、解決策の一つとして、生分解性プラスチックが期待されている。しかしながら、生分解性プラスチックの海洋での生分解については定量的な研究があまり進んでおらず、ISO標準法も整備の途上である。ここでは生分解性材料としてどのようなものがあり、どのように生分解されるか、また生分解に影響する因子、分子設計による生分解制御、海洋生分解性などについて紹介する。

R3.6.5 「ナノフィラー充填コンポジットの力学特性と今後の展開 ~ナノフィラーの分散とコンポジットの本質に迫る~」

富山県立大学 工学部 客員教授/フィラー研究会 会長 理学博士 永田 員也 氏

ナノコンポジットはモンモリロナイト/PA6コンポジットの開発から始まり、充填されるナノフィラーがカーボンナノチューブ、グラフェン、セルロースナノファイバーへと変遷していき、既に20年経過している。しかし、これらナノコンポジットの市場は予測とは異なり、進展していない。そこで本セミナーではナノフィラーの分散技術の基礎を解説し、ナノコンポジットの界面、ナノフィラー分散構造と力学特性の関係について研究事例を交えて紹介する。最後にナノコンポジットの力学特性の本質に迫り、そこから導かれる今後の応用展開の可能性について私論を展開したい。

R3. 8. 7 「アクリルゴム概論」 (※この講演についてはハイブリッド講演の場合は、対面のみでWeb配信は行いません。また、Web講演のみになった場合、講演者・講演内容が変更になる可能性があります)

日本ゼオン株式会社 総合開発センター エラストマー研究所 主席研究員 小田川 義幸 氏
主席研究員 榊田 宏 氏

アクリルゴムは、その化学的構造から耐油性、耐熱性を有する合成ゴムであり、自動車用の部品の原料として広く使用されている。本セミナーでは、アクリルゴムの構造から製造方法およびゴムの特性について、基本的なところから製品開発の方向性まで、歴史を含めて解説する。本セミナーを通じてアクリルゴムの理解を深めていただく一助となれば幸いである。

R3. 10. 2 「シーリング材と弾性接着剤」

横浜ゴム株式会社 研究先行開発本部 高機能接着研究室 アドバイザーフェロー 木村 和資 氏

建築用シーリング材について、その種類と建物の構造、規模に応じた適用例について解説するとともに、耐候性や接着等の劣化挙動とその対策技術、環境対応等の動向について紹介する。また、その派生技術ともいえる弾性接着剤についても、自動車分野での適用例等について紹介する。個々のケース毎に適宜、ポリマーの分子設計から充填剤をはじめとした各種配合剤による配合設計と、これによって発現される様々な機能と特性について紹介する。

R3. 12. 4 「エラストマー系ナノコンポジットと NMR を用いたゴムの劣化解析」

愛知工業大学 工学部応用化学科 教授 博士(工学) 福森 健三 氏

近年の資源循環型社会構築の観点から、架橋ゴムの代替として、リサイクル性や生産性に優れた熱可塑性エラストマー(TPE)の採用が着実に進められている。本セミナーでは、演者らによる「ナノ粒子分散制御によるオレフィン系動的架橋 TPE の高機能化」に関する最近の研究進捗を主体に、更に架橋ゴムの信頼性評価に有効な「パルス法 NMR を用いた劣化解析手法の高度化」への取り組みについても話題提供を行う。

R4. 2. 5 「異種材料接着のためのゴム配合と接着解析について」

横浜ゴム株式会社 研究先行開発本部 材料機能研究室 主幹 博士(工学) 鹿久保 隆志 氏

自動車や工業製品は環境対応のため軽量化、省資源化が進んでいる。自動車では金属(鉄、アルミ、亜鉛等)、ガラス、プラスチック、樹脂、炭素繊維、ゴム等、多くの素材が組み合わせられており、これらを強固に接着させる技術が求められる。ここでは工業用ゴム製品に多く用いられるゴムと金属(ワイヤ、板)等の異種材料接着について、直接接着(加硫接着)と間接接着(接着剤接着)の技術的背景を紹介する。また、直接加硫接着時のゴム配合の基本について説明するとともに、接着の解析方法について説明する。

----- キ リ ト リ -----

“第42回 サタデーセミナー” 参加申込書 (コピー可) E-mail : srijwest@oak.ocn.ne.jp
(直接このファイルに記入して頂くことも可能です) Fax : 06-6744-2052

団体名			
このセミナーに関する担当者(役職・氏名)	TEL		
	メール		
所在地	〒		
セミナー参加予定者(交替可)	氏名	役職名	
	氏名	役職名	

個人情報、セミナーのご案内以外の目的には使用しません。
年6回のご案内をメールで送信しますので、アドレス記入をお願いします。
参加申込書到着後、請求書をお送り致します。